

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第5号(9月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

《特に注意》

【水稲】	トビイロウンカ
【バラ科果樹】	クビアカツヤカミキリ
【なす】	褐紋病
【野菜類・花き類】	シロイチモジヨトウ

《9月の予報概要》

A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
水稲				いもち病	
		紋枯病			
	ジャンボタニシ(発生に注意)				
				トビイロウンカ	
		斑点米カメムシ			

B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
ぶどう			べと病		
			褐斑病		
				晩腐病	
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病		
		ミカンハダニ			
果樹類全般	果樹カメムシ類				

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
なす				褐紋病	
		アザミウマ類			
きゅうり		ウリノメイガ			
				コナジラミ類	
		ミナミキイロ アザミウマ			
	黄化えそ病(発生に注意)				

D 花き(きく)

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
花き(きく)				黒斑病・褐斑病	
				白さび病	
				アザミウマ類	

E 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	<u>やや多い</u>	多い
野菜 花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
				コナガ	
				オオタバコガ	
			アブラムシ類		

《(参考)9月の気象予報》

気温	低い (30%)	平年並 (30%)	高い (40%)
降水量	少ない (30%)	平年並 (30%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (30%)	多い (30%)

(大阪管区気象台 8月26日発表)

A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に上位3葉に葉いもち病斑があると穂いもちに移行しやすいので、降雨が続く場合はブラシフロアブルなどを散布する。
紋枯病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年より少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高温多湿であれば発病が多くなる。
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水深4cm以下の浅水管理を行う。 ・ 桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 ・ 田植直後から約20日後までの食害による被害が大きいの。
トビイロウンカ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・ 一部地域における予察灯への誘殺虫数は平年より多かった。 ・ JPP ネットのウンカ飛来予測システムにおいて、6月から8月にかけて断続的にトビイロウンカが大阪府に飛来したと推定されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲の株元（水際）に生息するので、稲の株元を叩くなどして発生しているかを確認し、株元まで届くように薬剤散布する。
斑点米カメムシ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予察灯への誘殺虫数は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出穂期に株元まで届くように薬剤散布する。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。
褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被害葉は園外に持ち出し処分する。
晩腐病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回調査では、発生は平年より多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内への雨滴の侵入を防ぐ。

2 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 枯れ枝を見つけ次第除去する。
ミカンハダニ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年より少なかった。 9月の気温は平年並と予想されている。

4 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年より少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
褐紋病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年並であった。 一部地域で発生が多いとの報告がある。 9月の降水量は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 葉や茎に褐色の病斑ができる。果実では褐色で円形の斑点ができ、進展すると腐敗する。さらに病状が進むと柄子殻という小さな黒点を形成する。 特に露地の水なすで発生しやすい。 盛夏過ぎから被害が増える傾向にある。 病原菌は被害植物とともに土壌中に残り、次作の伝染源となる。

アザミウマ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年より少なかった。 ・9月の気温は、平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。 ・雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。 ・栽培終了後に施設内の除草を行い、施設を密閉して蒸し込んで虫を餓死させる。
--------	---------	--

2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
ウリノメイガ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。 ・ハウスの開口部を寒冷紗（2mm目合）等で被覆し、成虫の侵入を防止する。
コナジラミ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病に発生するため、葉や果実が黒く汚れる
ミナミキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期は、葉の葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。 ・ミナミキイロアザミウマは、きゅうり黄化えそ病などのウイルスを媒介する。 ・ハウスの開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
黄化えそ病	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス（MSV）によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリに感染する。 ・MSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。 ・MSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介されるため、ミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。

D 花き（きく）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年より多かった。 ・9月の降水量は、平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降雨によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。 ・被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
白さび病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・9月の降水量は、平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。 ・被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。 ・施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。
アザミウマ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・9月の気温は、平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・品種により被害の現れ方に差がある。

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや多い～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年より多かった。 ・9月の気温は平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

コナガ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
オオタバコガ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期・食入前）に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailserVICEmousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約 15 件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)